

## モニタリング結果報告書

施設	神奈川県総合リハビリテーションセンター
指定管理者	社会福祉法人 神奈川県総合リハビリテーション事業団
施設所管課	保健福祉局 企画調整部 病院事業課

(平成22年度 下半期)

### 管理運営状況総括

#### 1 月例報告によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	備考(確認事項)
10月	11月30日	12月13日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし
11月	12月28日	1月19日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし
12月	1月31日	2月10日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし
1月	2月28日	3月11日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし
2月	3月31日	4月19日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし
3月	4月28日	5月27日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし

#### 2 指定管理者の選定理由にある取組み等の実施状況

##### (1) 提案内容の達成度

A: 提案を上回る

**B: 提案どおり**

C: 提案を下回る

##### (2) 実施状況等

〔指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績又は今後の見込みを記載する。〕

#### <提案内容の概要>

##### 1 総合性・高度専門性の発揮

- (1) リハセンターの一体的な運営の推進
- (2) 福祉施設の機能充実
- (3) 病院の機能充実
- (4) 地域支援センター機能の充実
- (5) 研究・開発機能の充実
- (6) 地域の関係機関との連携強化への取組み
- (7) 専門職員の育成

##### 2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- (1) 人権擁護と個人情報の保護
- (2) 利用者サービスの向上対策
- (3) 自己評価・第三者評価等の推進
- (4) 安全対策の推進

##### 3 効果的・効率的な運営

- (1) 採算性に配慮した運営
- (2) 収益の確保対策と経費の節減対策

#### <実施状況>

##### 七沢学園

##### 1 総合性・高度専門性の発揮

- ・知的障害児者に対し、病院と連携して難治性てんかんや胃腸等医療的課題のある方の受入や、強度行動障害、発達障害等を持つ方への支援を行ない、行動障害の軽減、環境への適応性の向上に取り組み、地域生活に向けた支援を行なった。
- ・地域生活に向けた取組により、60名(72.3%)の利用者が家庭、グループホームを活用した地域生活に移ることができた。
- ・日中支援機能の充実のため、課題の多いケースには、心理科の協力を得て行なうなど、個人に沿ったプログラムを充実し対応している。
- ・医療重度者の支援に向けた入所支援サービスに取り組んだ。(8名入所)
- ・強度行動障害者への対応は、県強度行動障害対策事業連絡調整会議への参加、訪問調査などに取り組むとともに、神奈川リハ病院と連携しSST手法等を実施している。(SST手法とは、ソーシャルスキルトレーニングの略。知的障害者の社会生活力を高める訓練)(強行10人受入)
- ・発達障害児に対する支援プログラムを整備するとともに、神リハ病院と連携しSST手法を実施している。
- ・在宅障害児生活リズムの立て直しや心理評価、行動観察等を行なう集中療育の支援プログラムを見直し、利用枠を拡大(20年度3~4名→21年度4~5名→22年度8~9名)するとともに、療育期間を1ヶ月から6ヶ月の幅を持たし、さらにきめ細かい対応が図れるようにした。(延べ利用者数798人 前年度比5.7%増)
- ・各児童相談所との連携、家族支援、児童への精神的ケアなど被虐待児への支援を行った。
- ・更生ホーム入所の高次脳機能障害者に対し、日中訓練は七沢学園で知的障害者向けのプログラムを活用し支援を行い、効果をあげた。「人に慣れる、作業に慣れる」という訓練・評価は知的障害のサービスの方向性であり、複合施設ならではの取り組みで障害のハザマの対応ができた。
- ・地域のイベントへの参加、実習生、ボランティアの受入れなど地域との連携を図った。

## 2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- ・職場内研修、職場外研修(中央,厚木児童相談所)、派遣交流研修などを実施した。
- ・施設内における感染症予防(インフルエンザ、ノロウイルス対策等)の研修を実施し、予防対策の強化を図った。
- ・金銭管理マニュアル、身体拘束マニュアル、投薬管理マニュアル、無断離棟捜索マニュアル等に基づく適正な対応を行った。
- ・人権擁護対策チームを作り、人権擁護の意識向上の為研修、人権チェック等を実施した。
- ・苦情解決への取組みとして毎月第三者委員による個人相談を実施した。
- ・利用者満足度調査を実施した。
- ・防災訓練計画に基づき毎月避難訓練、消火訓練を実施した。

## 3 効果的・効率的な運営

- ・県内養護学校との業務連絡会、保護者会、短期利用制度等を利用して事業PRを行なった。

## 七沢療育園

### 1 総合性・高度専門性の発揮

- ・重度の知的障害と重度の肢体不自由を併せ持つ重度重複障害児者に対する支援を行なうとともに、人工呼吸器や経静脈栄養法等全身性の管理が必要な医療重度者の受入や、中短期入所による通過型の支援により地域の在宅児者の支援を行なった。
- ・中期入所枠を長期利用者の死亡退所に伴い1床増の10床とし、在宅重心児者の課題解決に向けた支援を展開している。(延151人(実54人)の利用)
- ・超・準超重症心身障害児の受入については、中期入所を含め最大13床(計画8床)の受入を行い、実38人の利用者の支援を行なった。
- ・県の委託により重症心身障害児の巡回訪問を実施し、個人宅及び作業所などを訪問した。(平成22年度実績 実施回数154回、対象者数298名)
- ・重心親子教室を実施し、療育相談を行なった。(平成22年度実績 5回実施)
- ・厚木市・愛川町・清川村障害者自立支援協議会発達支援部会へ参加した。
- ・園内の研修について、看護科・支援課と共同で計画・実施した。

## 2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- ・適正な対応が図れるよう、病棟抑制マニュアルを作成した。
- ・個人情報保護、人権擁護等について、研修の他、朝のミーティング時に対応等への意識付けを行っている。
- ・施設内における感染症予防(インフルエンザ、ノロウイルス対策等)の研修を実施し、予防対策の強化を図った。
- ・苦情解決への取組みとして、毎月第三者委員による個人相談を実施している。
- ・よりよい施設運営に向けて、自己評価、利用者満足度調査の実施をした。
- ・防災訓練計画に基づき毎月避難訓練、消火訓練を実施した。

## 3 効果的・効率的な運営

- ・療育訪問指導事業等で施設利用相談を進め、利用に繋げている(22年度154回 298人)

## 七沢更生ライトホーム

### 1 総合性・高度専門性の発揮

- ・病院から直接自宅退院できない頸髄損傷、高次脳機能障害、脳血管障害等による重度の肢体不自由者に対し、病院に引き続き医療的リハビリテーションを行なうとともに、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、地域生活が営めるよう支援を行なった。(退所者の障害別内訳 脊損12(内頸損による四肢麻痺9人)、脳外傷2人、脳血管障害29人、脳性麻痺2人、二分脊椎1、その他神経疾患5)
- ・疾病等による中途の視覚障害者に対し、感覚訓練、歩行訓練等によるリハビリテーションにより、地域生活が営めるよう支援を行なった。(実退所者数10人)
- ・地域生活に向けた取組により、54名(88.5%)の利用者が家庭、グループホームを活用した地域生活に移ることができた。
- ・また、入院中に住居を失った重度の障害者に対し、地域において単身生活ができるよう支援を行なった。(単身者の地域移行15名)
- ・一貫した医療と福祉サービスの提供に向け、障害別に連続したプログラムに基づいて支援した。
- ・社会生活力向上のため、疾患別、目的別にグループワーク等を利用して多種多様な支援プログラムを提供した。
- ・肢体不自由者に対して、就労自立セミナーや、健康管理に関するセミナーを開催した。
- ・高次脳機能障害への取組みの為、日中訓練、家族懇談会等を実施した。
- ・若年の脳血管障害者や頸髄損傷者への支援を行ない、就労や自立生活へ向けた取り組みを行なった。
- ・更生ホーム入所の高次脳機能障害者に対し、日中訓練は七沢学園で知的障害者向けのプログラムを活用し支援を行い、効果をあげた。「人に慣れる、作業に慣れる」という訓練・評価は知的障害のサービスの方が向いており、複合施設ならではの取り組みで障害のハザマの対応ができた。
- ・視覚障害者の職業の紹介や、福祉機器や盲導犬の活用方法等のセミナーを実施した。
- ・視覚障害者の地域生活の充実のため訪問訓練を実施した。(44件実施)
- ・神奈川リハ病院眼科外来と連携し、ロービジョン(低視覚障害)者の相談・技術支援等を行なった。
- ・地域支援センターの主催する研修に講師として派遣するとともに、各地域の研修に職員を講師として派遣し、連携を図った。
- ・教員・保護者・当事者の見学希望、体験研修、実習等の積極的な受入れを行った。
- ・厚木市・愛川町・清川村障害者自立支援協議会の生活支援部会に職員を派遣し、地域との連携を深めた。
- ・県内の社会福祉協議会や関係団体が主催するボランティア養成講習会等に職員を講師等で派遣した。
- ・職員の育成の為、積極的に福祉施設合同研修、神奈川リハ病院主催研修、施設外研修等に参加させた。

## 2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- ・人権擁護・虐待防止についての職員研修を実施した。
- ・施設内における感染症予防(インフルエンザ、ノロウイルス対策等)の研修を実施し、予防対策の強化を図った。
- ・苦情解決への取組みとして毎月第3者委員による個人相談を実施した。
- ・利用者満足度調査を実施した。
- ・防災訓練計画に基づき毎月避難訓練、消火訓練を実施した。

## 3 効果的・効率的な運営

- ・地域医療機関説明会、見学会などを実施し、利用率の向上に努めた。
- ・空床を利用した短期利用の受入を行い、施設の有効活用を図った。
- ・地域の回復期リハ病棟を訪問し、利用者確保を図った。
- ・施設機能の広報及び利用者の開拓を目的に視覚障害者の生活訓練体験会を実施した。
- ・相模原病院、神奈川リハ病院、ライトホーム合同での生活訓練体験会を実施した。
- ・視覚障害部門オープンセミナーとして、利用者の拡大を目的に、医療関係者を対象に支援技術と施設機能の紹介を行なった。
- ・夜勤専門看護職員を雇用するなど多様な雇用形態に努めた。

## 神奈川リハ病院

### 1 総合性・高度専門性の発揮

- ・脊髄損傷、外傷性脳損傷(高次脳機能障害)、変形性股関節症(術中を含む)、神経疾患、小児神経疾患等のリハビリテーションを行なうとともに、多診療科による障害者の総合診療・総合医療の提供を行なった。
- ・多職種によるチームアプローチにより、医療の提供を行なうとともに、医療的リハビリテーション、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、家庭復帰、復職・復学等、地域での生活が営めるよう、個々人のニーズや残存機能に応じた支援を行なった。
- ・退院患者のうちの主な疾患患者数  
脊髄損傷130人(うち頸髄損傷による四肢麻痺79人)、高次脳機能障害(234人)、神経難病(41人)、小児神経疾患(70人)
- ・退院患者のうち86.9%が自宅退院できた。
- ・急性期病院等とのネットワークの強化の為、東海大学医学部付属病院医療連携情報交換会を開催するとともに、相互の医師間の連携(doctor to doctor)によるホットラインによる早期受入を行なった。
- ・高次脳機能障害者、頸髄損傷者に向けた就労支援の取組みを行なうとともに、地域就労支援機関等への助言・支援を行った。
- ・県内医療機関に勤務する理学療法士の卒後臨床教育へ取組んだ。(7人受講)
- ・脊髄損傷、高次脳機能障害、変形性股関節症(術中を含む)、小児脳損傷、脳血管障害にクリニカルパスにより、患者にとってわかりやすい医療を提供するとともに、平均在院日数の短縮、安定的治療、ベッドコントロールの円滑化を図った。
- ・医師、栄養士、看護師等で構成する栄養サポートチームによる栄養療法、摂食・嚥下障害への対応を実施した。
- ・厚木病院協会地域連携委員会や、県西部MSW連絡会等の近隣医療機関との連絡会、自立支援協議会等に参加し、地域連携に取組んだ。
- ・医療安全管理会議等が企画する病院内の専門研修を企画・実施した。

### 2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- ・病院機能評価を受審し、病院機能の向上、患者サービスの向上に向けた取り組みを図った。
- ・医療安全推進室のリスクマネージャーを中心に、ヒヤリ・ハット事例を含むすべての事故事例をインシデント・アクシデント・クレームレポートとして報告する制度により、事故事例の分析などを通じて事故の再発防止に取組み、安全安心な医療サービスの提供に取り組んだ。
- ・アドボカシー室において、利用者からの要望、苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。  
(苦情・要望に対する対応状況件数 79件)
- ・入院患者満足度調査、外来患者満足度調査を行なった。
- ・障害者歯科診療を実施した。(延べ2,064件)
- ・禁煙外来による禁煙指導を行った。(禁煙外来延べ患者数 95人)
- ・新型インフルエンザ対応マニュアル等、医療安全マニュアルによる安全対策を実施している。
- ・医療安全対策の取組みとして、離院、離棟搜索訓練、医療安全研修、医薬品安全使用チェックリストに基づく業務点検等を行った

### 3 効果的・効率的な運営

- ・利用率当初計画の達成に向けて、次のとおり取り組んだ。
  - ① 入院審査会(毎日開催)
  - ② Dr to Drの紹介患者早期受入れ
  - ③ 入院患者確保対策(病院訪問を実施、入院案内・申込書・入院までの目安日を関連病院に郵送)
  - ④ 市町村担当者や近隣病院のケースワーカーへの病院説明会による情報提供の実施
- ・ホームページや広報誌の充実に取り組んだ。
- ・請求もれ、査定減対策等の推進に取り組んだ。
- ・医薬品、診療材料等の廉価購入、後発医薬品の購入等の促進に取り組んだ。

## 七沢病院

### 1 総合性・高度専門性の発揮

- 生活習慣改善による脳卒中の予防から発症後の回復期にある患者に対するリハビリテーション、さらには退院後の機能低下に対する再訓練を行なうとともに、高次脳機能障害や合併症による重度・重複障害の社会復帰に向けた支援を行なった。
- 多職種によるチームアプローチにより、医療の提供を行なうとともに、医療的リハビリテーション、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、家庭復帰、復職等、地域での生活が営めるよう、個々人のニーズや残存機能に応じた支援を行なった。
- 退院患者のうち77.3%が自宅退院できた。
- 入院患者の多くに何らかの高次脳機能障害を有しているため、臨床心理士、PT、OT、ST、看護師等による総合的アプローチを実施した。
- 医療の質の向上を図るため、クリニカルパスによる入院から退院までの一貫した流れを図式化し、患者を含め情報を横断的に共有できることで入院期間の短縮やチーム医療の徹底が図られた。  
《クリニカルパスの種類》
  - 脳卒中リハビリテーション・クリニカルパス
  - 生活習慣改善入院クリニカルパス
- 生活習慣改善入院の機能により、脳卒中の予防に努めた。(実61人 延1897人)
- 入院時栄養スクリーニングを全患者に実施し、栄養サポートチームにより定期的に病棟回診を行った。
- 摂食・嚥下障害のある患者に対して、摂食・嚥下障害看護認定看護師と他職種と共に回診し、多角的な視点からアプローチを実施した。
- 「摂食・嚥下外来」や「禁煙外来」の専門外来を実施した。
- 県内医療機関MSWを対象とした見学会の開催、自立支援協議会の参加等で地域関係機関との連携を図った。
- 脳血管疾患患者の早期受け入れに向けて、救命救急センターとの連携強化に取り組んだ。
- 患者の人権擁護等利用者サービス向上のため、研修を開催し、医療従事者として必要な知識の向上に努めた。
- 脳卒中地域連携パスの推進として、8つのグループに参加するなどの取組みを行った。

### 2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

- 医療安全推進室のリスクマネージャーを中心に、ヒヤリ・ハット事例を含むすべての事故事例をインシデント・アクシデント・クレームレポートとして報告する制度により、事故事例の分析などを通じて事故の再発防止に取組み、安全安心な医療サービスの提供に取り組んだ。
- アドボカシー室において、利用者からの要望、苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。
- 入院患者の早期離床、ADL向上の促進のため、土曜日リハビリテーション訓練を実施した。
- リハスタッフと看護職員が連携し、病棟内リハビリテーション訓練を実施した。
- 利用者満足度調査、自己評価等を実施した。
- 新型インフルエンザ対応マニュアル等、医療安全マニュアルによる安全対策を実施している。
- 医療安全対策の取組みとして、離院、離棟搜索訓練、医療安全研修、医薬品安全使用チェックリストに基づく業務点検等を行った

### 3 効果的・効率的な運営

- 毎月施設の利用状況及び収入分析について経営会議で報告し、適切な施設経営に努めた。
- 利用率当初計画の達成に向けて、次のとおり取り組んだ。
  - 入院審査会(毎日開催)
  - Dr to Drの紹介患者早期受け入れ
  - 入院患者確保対策(44病院に対して毎週空床情報をFAXで送付等)
- 脳卒中公開講座の開催により、一般県民向けに脳卒中予防や病院の機能紹介を行なった。
- ホームページや広報誌の充実に取り組んだ。
- 請求もれ、査定減対策等の推進に取り組んだ。
- 医薬品、診療材料等の廉価購入、後発医薬品の購入等の促進に取り組んだ。

## その他

### 1 総合性・高度専門性の発揮

#### 地域支援センター機能の充実

- リハセンターがこれまで培った技術・知識を地域に還元し地域リハ推進を支援するため、専門職種に対する研修、専門相談、情報の提供を行なうとともに、必要に応じて地域の個別困難事例に地域のスタッフとともに取り組んだ。  
(相談件数431件、研修26項目 34日間 延1760人受講)
- 県の高次脳機能障害支援拠点として、支援方法の普及、地域連携支援を行なうとともに、県単事業として巡回相談、関係機関コンサルテーション、地域ネットワークづくりに取り組んだ。  
(個別相談件数316件) (巡回相談 横須賀三浦22件、湘南東部7件)
- 綾瀬市を対象にモデル事業を行い、支援技術の均てん化を図るとともに、市町村の専門人材の育成・連携支援を行なった。
- 新規研修の開催、出前研修を実施し参加しやすく工夫するなど専門職員研修を充実させた。
- ホームページや「地域支援センターだより(広報誌)」により、リハビリテーション情報の提供を実施した。
- 一般県民等に向けたフォーラムを開催した。

## 1 総合性・高度専門性の発揮

### 研究・開発機能の充実

・病院・福祉施設であるリハセンターとして、臨床的・実践的な研究・開発を推進している

(研究テーマ)

- (1) 障害児者におけるリハビリテーションアプローチに関する研究
- (2) 障害者に関する福祉学・医学的研究
- (3) 障害児者に関する計測的・工学的研究
- (4) 障害児者に関する移動及び姿勢制御等の研究
- (5) 福祉機器の開発及び評価支援システムに関する研究
- (6) 障害児者の生活の質に関する研究

他大学等との連携した研究

- 首都大学東京

「福祉のまちづくり」「4輪歩行車による要介護高齢者の歩行支援」

- 東海大学工学部

「表面筋電図の分析と義肢制御への応用に関する研究」

- 兵庫県立福祉のまちづくり研究所

「ロービジョン者に配慮した音と光を用いた歩行空間ユニバーサルデザインに関する研究」

学会発表(平成22年度)

- 国際臨床神経整理学会

「潜時が異なる同一運動単位F波」

- 日本めまい平衡医学会学術大会

「顎・咬合運動異常に対する口腔スプリント治療により転倒回数が減少した小児の外傷性脳損傷」

- 日本義肢装具学術大会

「チルト&リクライニング式車いすの小回り性能向上と姿勢保持機能への工夫 -第2報-」

- The International Conference on Aging, Disability and Independence (高齢者・障害者の自立に関する国際会議

「A Validation Study On The Practical Use Of An Audible LED Pole Signal For Elderly And People With Low Vision」

(高齢者・視覚障害者用LED音響ポール信号の実用化検証)

3 収支状況

(単位:千円)

	収入額				支出額	収支差額
	指定管理料	利用料金 (前年同月料金額)	その他収入			
年間予算額	11,143,615	4,904,949	6,181,979	56,687	11,143,615	0
上半期計 (a)	5,501,030	2,337,381	3,134,642 (3,211,590)	29,007	5,220,701	280,329
下半期 (b)	5,654,203	2,567,568	3,050,818 (3,143,006)	35,817	5,735,008	△ 80,805
10月	763,762	244,144	514,581 (546,039)	5,037	794,678	△ 30,916
11月	786,732	285,492	497,317 (473,288)	3,923	744,786	41,946
12月	1,542,257	1,040,950	496,810 (529,670)	4,497	1,510,346	31,911
1月	829,641	331,154	494,673 (532,480)	3,814	718,720	110,921
2月	825,510	320,717	500,213 (406,542)	4,580	780,350	45,160
3月	906,301	345,111	547,224 (654,987)	13,966	1,186,128	△ 279,827
合計 (a+b)	11,155,233	4,904,949	6,185,460	64,824	10,955,709	199,524

- 1 指定管理者の収入を記載する(県の収入である「使用料」は含まない)。  
 2 「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載する。

収支状況に関する意見書

- ・半期計欄の収支差額が、収入額又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。
- ・また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が、人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載する。
- ・年間予算額の収支が均衡していない場合は、その理由を記載する。

収入状況

利用料金収入のうち福祉施設の利用実績は全体で減となっているが、短期利用や補装具製作・修理の実績増、実績単価増等により収入計画達成率は101.17%となっている。また、2病院の利用実績はともに減となっており、一日平均入院率は両病院で81.43%となっているが、手術件数の前年度並確保、実績単価の増により収入計画達成率は99.86%となっている。

その他収入は、実習謝礼の増等による雑収入の増等により、8,137千円の増となっている。

支出状況

人件費は、予算6,872,997千円(給料・手当等)に対し、6,821,145千円で99.25%の執行率であり、手当の実績減等による減である。

物件費は、予算3,806,474千円に対し、3,670,420千円で96.43%の執行率であり、事業計画減に伴う直接処遇費(給食材料費・寝具借上料等)の減等によるものである。

(今期に行った資本的な収支及び支出の状況)

	内容	金額(千円)
収入の状況		千円
支出の状況	固定資産(携帯用発電機)の購入	195 千円
	積立金の取り崩し(学資金の単価増分(@32千円→70千円)へ充当)	36,144 千円
積立金の状況	総合リハ積立金 (①職員の育成と確保定着対策 ②職員の専門性の向上対策 ③危機管理対策 ④利用者サービス向上 ⑤病院・福祉施設の機能の充実 以上①～⑤を目的として積み立てている)	126,785 千円

- 収入の状況：定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載する。  
 支出の状況：車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載する。  
 積立等の状況：積立・借入れ等がある場合は、その内容(施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等)、当該期首及び期末の金額を必ず記載する。

#### 4 利用状況

##### (1) 七沢療育園(入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	6,960 人	6,873 人	1.3%
下半期計(b)	6,887 人	6,753 人	2.0%
10月	1,175 人	1,128 人	4.2%
11月	1,169 人	1,119 人	4.5%
12月	1,156 人	1,123 人	2.9%
1月	1,130 人	1,120 人	0.9%
2月	1,073 人	1,055 人	1.7%
3月	1,184 人	1,208 人	△ 2.0%

##### (2) 七沢療育園(地域支援)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	259 人	165 人	57.0%
下半期計(b)	304 人	186 人	63.4%
10月	50 人	43 人	16.3%
11月	34 人	19 人	78.9%
12月	45 人	36 人	25.0%
1月	82 人	9 人	811.1%
2月	35 人	35 人	0.0%
3月	58 人	44 人	31.8%

##### (3) 七沢学園(児童・入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	5,065 人	5,119 人	△ 1.1%
下半期計(b)	5,216 人	5,136 人	1.6%
10月	851 人	863 人	△ 1.4%
11月	864 人	839 人	3.0%
12月	867 人	864 人	0.3%
1月	891 人	890 人	0.1%
2月	836 人	792 人	5.6%
3月	907 人	888 人	2.1%

##### (4) 七沢学園(児童・地域支援)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	604 人	590 人	2.4%
下半期計(b)	506 人	572 人	△ 11.5%
10月	73 人	105 人	△ 30.5%
11月	81 人	95 人	△ 14.7%
12月	104 人	107 人	△ 2.8%
1月	99 人	59 人	67.8%
2月	64 人	98 人	△ 34.7%
3月	85 人	108 人	△ 21.3%

##### (5) 七沢学園(成人・入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	12,895 人	12,397 人	4.0%
下半期計(b)	11,121 人	11,903 人	△ 6.6%
10月	2,028 人	2,037 人	△ 0.4%
11月	1,842 人	2,026 人	△ 9.1%
12月	1,807 人	1,997 人	△ 9.5%
1月	1,856 人	1,980 人	△ 6.3%
2月	1,705 人	1,811 人	△ 5.9%
3月	1,883 人	2,052 人	△ 8.2%

## (6) 七沢学園(成人・地域支援)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	167人	232人	△ 28.0%
下半期計(b)	192人	201人	△ 4.5%
10月	37人	20人	85.0%
11月	23人	10人	130.0%
12月	32人	37人	△ 13.5%
1月	24人	34人	△ 29.4%
2月	31人	40人	△ 22.5%
3月	45人	60人	△ 25.0%

## (7) 七沢更生ライトホーム(入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	11,088人	15,702人	△ 29.4%
下半期計(b)	10,032人	14,301人	△ 29.9%
10月	1,695人	2,434人	△ 30.4%
11月	1,639人	2,411人	△ 32.0%
12月	1,730人	2,465人	△ 29.8%
1月	1,760人	2,420人	△ 27.3%
2月	1,516人	2,233人	△ 32.1%
3月	1,692人	2,338人	△ 27.6%

## (8) 七沢更生ライトホーム(地域支援)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	1,089人	818人	33.1%
下半期計(b)	1,406人	1,037人	35.6%
10月	286人	137人	108.8%
11月	211人	166人	27.1%
12月	201人	146人	37.7%
1月	200人	169人	18.3%
2月	233人	198人	17.7%
3月	275人	221人	24.4%

## (9) 神奈川リハビリテーション病院(入院)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	42,787人	45,042人	△ 5.0%
下半期計(b)	43,149人	42,747人	0.9%
10月	7,201人	7,214人	△ 0.2%
11月	7,124人	7,615人	△ 6.4%
12月	7,113人	7,149人	△ 0.5%
1月	7,032人	6,848人	2.7%
2月	7,109人	6,408人	10.9%
3月	7,570人	7,513人	0.8%

## (10) 神奈川リハビリテーション病院(外来)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	41,179人	42,668人	△ 3.5%
下半期計(b)	41,580人	43,449人	△ 4.3%
10月	7,638人	8,028人	△ 4.9%
11月	6,995人	7,138人	△ 2.0%
12月	6,873人	7,226人	△ 4.9%
1月	6,675人	6,876人	△ 2.9%
2月	6,470人	6,566人	△ 1.5%
3月	6,929人	7,615人	△ 9.0%

(11) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター(入院)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	35,757 人	35,308 人	1.3%
下半期計(b)	32,494 人	35,273 人	△ 7.9%
10月	5,234 人	5,611 人	△ 6.7%
11月	5,069 人	5,504 人	△ 7.9%
12月	5,160 人	5,739 人	△ 10.1%
1月	5,617 人	5,903 人	△ 4.8%
2月	5,468 人	6,006 人	△ 9.0%
3月	5,946 人	6,510 人	△ 8.7%

(12) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター(外来)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	5,161 人	5,547 人	△ 7.0%
下半期計(b)	5,202 人	5,992 人	△ 13.2%
10月	946 人	1,194 人	△ 20.8%
11月	1,010 人	1,181 人	△ 14.5%
12月	818 人	959 人	△ 14.7%
1月	784 人	853 人	△ 8.1%
2月	768 人	833 人	△ 7.8%
3月	876 人	972 人	△ 9.9%

利用状況に関する意見等

〔 半期計欄の前年対比増減率が、1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。 〕

七沢療育園の地域支援は、前年度対比で+63.4%の増減率となっているが、これは、七沢療育園の利用定員が40人で、21年度10月に入所者2名が退所(死亡)したことにより、その空床分を活用し、短期入所の利用ニーズに対する受け入れを増やしたことに伴う増である。

七沢更生ライトホームの入所は、前年度対比で△29.9%の増減率となっているが、これは、県の障害福祉計画に基づき、平成22年度から入所定員を70人と、21年度の120人から50人の地域移行を実施し縮小したため、減となっている。

七沢更生ライトホームの地域支援は、前年度対比で+35.6%の増減率となっているが、これは22年度の短期利用者のうち、生活保護等を受け、住居が決まらない利用者2名(10月は3名)がおり、通常であれば10日程度の利用期間のところを、10月～3月の半年間利用していることによる増である。

七沢病院の外来は、前年度対比で△13.2%の増減率となっているが、これは循環器内科医師(非常勤)の退職に伴い、循環器内科の診察日が週3回から週2回となったこと。また、インフルエンザの予防接種について、新型と季節型の接種が一本化されたことによる内科受診者の減によるものである。

5 苦情・要望等の状況  
(施設受付分)

(施設所管課受付分)

(1)七沢療育園

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月	0	0	0	0	0	0
11月	1	0	0	0	0	1
12月	1	0	0	0	0	1
1月	0	0	0	0	0	0
2月	1	0	0	0	0	1
3月	0	0	0	0	0	0

報告月	口頭	文書	合計
10月	0	0	0
11月	1	0	1
12月	1	0	1
1月	0	0	0
2月	1	0	1
3月	0	0	0

(2)七沢学園(児童)

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0

報告月	口頭	文書	合計
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0

(3)七沢学園(成人)

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月	1	0	0	0	0	1
11月	0	0	0	0	0	0
12月	0	1	0	0	0	1
1月	0	1	0	0	0	1
2月	0	1	0	0	0	1
3月	0	0	0	0	0	0

報告月	口頭	文書	合計
10月	1	0	1
11月	0	0	0
12月	1	0	1
1月	1	0	1
2月	1	0	1
3月	0	0	0

(4)七沢更生ライトホーム

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0

報告月	口頭	文書	合計
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0

(5)神奈川リハビリテーション病院

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月	8	1	1	0	0	10
11月	2	0	2	0	0	4
12月	3	2	9	0	0	14
1月	9	1	4	0	0	14
2月	5	1	2	0	0	8
3月	2	1	5	0	0	8

報告月	口頭	文書	合計
10月	9	1	10
11月	2	2	4
12月	5	9	14
1月	10	4	14
2月	6	2	8
3月	3	5	8

(6)七沢リハビリテーション病院脳血管センター

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月	1	0	3	0	0	4
11月	2	0	5	0	0	7
12月	0	1	5	0	0	6
1月	3	0	12	0	0	15
2月	0	0	7	0	0	7
3月	1	0	2	0	0	3

報告月	口頭	文書	合計
10月	1	3	4
11月	2	5	7
12月	1	5	6
1月	3	12	15
2月	0	7	7
3月	1	2	3

6 特筆すべき苦情・要望及び対応状況

類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者に評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなどを記載する。

分野	概要	対応状況
施設・設備	・病室の空調の効きが悪い。部屋ごとの空調管理はできないのか。(北側の病室のためか、寒い)	現在の空調設備は温度管理が集中管理方式であり、このため、病室によっては寒いところがある。(特に北側) 各室の温度管理を行う空調設備を導入するには多額の費用を要し、現段階では困難な状況であり、10月中旬から、夜間や早朝の寒い時間帯は、暖房を入れたり、病棟で毛布等を配付することで、ご理解いただいた。
	・トイレに水漏れがあり、足元が滑り転倒しそうで怖い。	水洗の手動ハンドルのバルブパッキンの老朽化に伴う水漏れで、早急に修理を行うとともに、水漏れを清掃し、了承頂いた。 今後、トイレを清掃している業者等と院内の関係部署と連携をとり、トイレなどの水漏れについては、迅速な対応を図る。
職員対応	・窓口職員の対応が遅く、そのまま放置されたような気がして不愉快であった。	窓口に来た患者さんには、直ぐ対応することを原則としており、対応できない場合にはお待ちいただく旨を丁寧に伝えるなど、患者さんが納得できる対応を行うよう、指導した。
その他	・ケースワーカーの対応に感謝。(将来、抱えている不安感を解消できた)	直属の上司と通じて感謝の言葉を対応職員に伝え、今後の仕事の励みになることを要望者に伝えた。
	・3時のおやつが食べたい。	主治医の指示のもと、1日3食の食事患者さまに必要な栄養・カロリーが摂れるよう、献立を工夫している。 間食については主治医に相談していただきたい旨を説明し、ご理解頂いた。

7 事故や不祥事等の発生状況

利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載する。なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、県庁改革課に任意の様式により速やかに報告書を提出する。

発生日	概要・対応状況等
月 日	なし

8 随時モニタリングの実施状況

事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載する。

実施日	対応者等	経緯・調査内容	調査結果
月 日	なし		
月 日			

9 (上) 下半期の所見等

1～8の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載する。

指定 管理者	<p>福祉施設の利用率については、身障施設が、県の障害福祉計画に基づき、50人の地域移行を行い、定員が21年度の120人に対して22年度から70人となっており、このため入所率が下がっている。</p> <p>また、知的障害施設が23年度から20名の地域移行の実施となるため、下半期は入所調整を行う必要があったが、可能な限り、利用率の維持に努力したところである。</p> <p>病院については、七沢病院は、照会元病院への定期的な訪問を行うことで、申込件数の増加に向け努力したところであるが、実績としては、前年度を下回る厳しい状況である。今後も、外部医療機関等に向けてベッドの空き情報などの情報を発信し、回復を図る。</p> <p>一方で事業団(センター)全体としては、平成21年3月に策定した新経営計画改訂計画(R21)実施計画について、事業の有効性や効率性を高めるため、具体的な実績や数値などを新たに中期目標として設定した変更実施計画を策定した。今後、この計画に基づき、これまで以上に専門性を高めつつ、同時に効率性を高めコスト削減を図るとい、相反する事項のバランスを図りながら、中期目標の達成に向け、経営に取り組む。</p>
施設 所管課	<p>(社福)神奈川県総合リハビリテーション事業団は、指定管理業務を効果的に実施するとともに、法人の効率的な運営に向け、新経営計画改訂計画(平成21年3月策定)に基づき、社会環境の変化や新たな課題に柔軟に対応した取組みを進めていることから、この計画が着実に推進されるよう、今後も指導を継続する。</p> <p>リハセンターの効率的な運用や安定的な収入確保の面から最優先の課題として認識している看護師確保対策であるが、リハ事業団が課題解決に向け積極的に取り組んだ為、21年度は看護師不足により稼働病床を制限して運用していたが、22年度は満床での稼働が可能となった。しかしながら看護師確保については全国の多くの病院が共通して抱える課題であることから、引き続き注視するとともに指導を継続する。</p> <p>また、神奈川リハ、七沢リハ両病院とも病床利用率が昨年度実績を下回っていることから、利用率向上に向け今後とも指導を継続していく。</p>